

コース名	科目名		対象学年
臨床医学	臨床実習Ⅱ		2
開講学期	科目責任者	副責任者	全体資料
1学期	和田 秀穂		無

授業到達目標

臨床実習Ⅱでは、社会福祉に貢献することのできる良医を育てるため、医療現場、特に看護師の仕事を早期に実体験することによって、看護業務の多様性を知り、医師として他の医療従事者との連携や協調の重要性について学ぶ。さらに、看護実習を通じて、患者に寄り添い、患者やその家族の立場や気持ちを理解し、患者中心の医療を実践する医師となる基盤を養うことを目的とする。

授業計画

回数	月日	曜日	時限	区分	担当者	所属	授業内容	コアカリ項目
1	6/26	水	4	講義	和田	血内	全体のガイダンス	A-5-1)
2	7/ 8	月	1	講義	平松	非常勤/ 川崎医科大学 附属病院 看護管理部	実際の病棟実習のオリエンテーション	A-4-1), A-6-1) A-6-1)-1, A-6-1)-2 A-6-1)-3, A-6-1)-4 A-6-1)-5, A-6-1)-6 A-6-1)-7, A-6-3) A-6-3)-1, A-6-3)-2 A-6-3)-3, A-6-3)-4 A-6-3)-5
3~7	7/ 8	月	2~6	実習	和田	血内	看護実習	A-4-1), A-6-1) A-6-1)-1, A-6-1)-2 A-6-1)-3, A-6-1)-4 A-6-1)-5, A-6-1)-6 A-6-1)-7, A-6-3) A-6-3)-1, A-6-3)-2 A-6-3)-3, A-6-3)-4 A-6-3)-5
8~13	7/ 9	火	1~6	実習	和田	血内	看護実習	A-4-1), A-6-1) A-6-1)-1, A-6-1)-2 A-6-1)-3, A-6-1)-4 A-6-1)-5, A-6-1)-6 A-6-1)-7, A-6-3) A-6-3)-1, A-6-3)-2 A-6-3)-3, A-6-3)-4 A-6-3)-5
14~19	7/10	水	1~6	実習	和田	血内	看護実習	A-4-1), A-6-1) A-6-1)-1, A-6-1)-2 A-6-1)-3, A-6-1)-4 A-6-1)-5, A-6-1)-6 A-6-1)-7, A-6-3) A-6-3)-1, A-6-3)-2 A-6-3)-3, A-6-3)-4 A-6-3)-5
20~25	7/11	木	1~6	実習	和田	血内	看護実習	A-4-1), A-6-1) A-6-1)-1, A-6-1)-2 A-6-1)-3, A-6-1)-4 A-6-1)-5, A-6-1)-6 A-6-1)-7, A-6-3) A-6-3)-1, A-6-3)-2 A-6-3)-3, A-6-3)-4 A-6-3)-5
26~28	7/12	金	1~3	演習	和田	血内	看護実習・ワークショップ	A-4-1), A-6-1) A-6-1)-1, A-6-1)-2 A-6-1)-3, A-6-1)-4 A-6-1)-5, A-6-1)-6 A-6-1)-7, A-6-3) A-6-3)-1, A-6-3)-2 A-6-3)-3, A-6-3)-4 A-6-3)-5

29~31	7/12	金	4~6	演習	和田	血内	看護実習・発表	A-4-1), A-6-1) A-6-1)-1, A-6-1)-2 A-6-1)-3, A-6-1)-4 A-6-1)-5, A-6-1)-6 A-6-1)-7, A-6-3) A-6-3)-1, A-6-3)-2 A-6-3)-3, A-6-3)-4 A-6-3)-5
評価方法								
[実習点]100% (発表・レポートも含める)								
[評価方法]出席・受講態度評価、論文・レポート、プレゼンテーション評価、実習態度評価、観察記録								
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックについて								
(特になし)								
教科書								
(特になし)								
参考書								
(特になし)								
準備学習 (予習・復習等)								
「臨床実習Ⅱの手引き・実施要領」をよく読み、理解すること。								
講義についての注意事項								
患者の立場を考え、実習を行うこと。 臨床実習Ⅱは全出席を原則とする。								
昨年度からの変更点・改善項目								
実際の医療現場で多職種からなる医療従事者との連携や協調を学び、さらに、患者の立場を考える機会として、看護実習を行うことにした。								
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連について								
臨床医としての基本を身につける学問であり、3年次に学ぶ臨床実習Ⅲ履修のための必須学問である。 本学コンピテンス達成のために多職種連携の重要性理解が必須である。								
ナンバリング								
DCCG222								